

東日本大震災復興支援教育・研究プロジェクト活動報告書

記入者 鈴木 るり子

【委員会名】 東日本大震災復興支援教育・研究プロジェクト	
【メンバー】 ◎鈴木るり子（岩手看護短期大学）、村嶋幸代（東京大学）、岡本玲子（岡山大学）、岸恵美子（帝京大学）	
【活動方針】 1) 東日本大震災支援活動をとおして、保健師活動・保健師教育について検討する 2) 災害保健の教育媒体を作成する	
平成 23 年度	
達成目標	1) 東日本大震災支援活動の報告書の作成 2) 災害保健の教育媒体の作成 3) 大槌町の健康課題について提言、継続的な支援を通して、保健師活動の在り方と災害保健における教育の在り方について検討する 4) 保健・福祉・医療従事者用マニュアルの作成
活動報告	[取り組みの概要] 全国保健師教育機関協議会では、東日本大震災に対する対応について、以下 2 点について理事のメール会報を開催、了承された。 ①東日本大震災で大被害のあった、岩手県大槌町への支援について ②東日本大震災の協議会の活動についての募金活動について さらに、平成 23 年度 5 月 13 日に開催された理事会において、この活動を全保教の特別プロジェクトとして正式に位置づけ、委員長として、鈴木理事が就任。活動内容は HP で周知することした。 [活動内容] 1) 大槌町への保健師による全戸訪問の開始 大槌町は、理事である鈴木の前勤務地で、人口の 7.8%を失い、役場等の公共施設の流出、役場の町長はじめ職員の 25%を失う大被害を受け、生存者の安否確認と健康状態の把握が必要であった。呼びかけに賛同した全保教関係者と NPO 法人公衆衛生看護研究所、全国保健師活動研究会を通して全国から 137 人（延べ 555 人）が参加した。期間：2011 年 4 月 23-5 月 8 日 2) 募金等について 募金は会員から 817,130 円、全戸訪問参加者から 166,175 円、日本女子大学桜楓会から 500,000 円、総額 1,483,305 円になった。募金の他に支援物資も提供された。 3) 調査 大槌町の調査を基に、厚生科研老健事業推進研究費（岡山大学大学院岡本玲子代表）により調査の継続及び大槌町へ全戸訪問時の住民の健康データの活用方法の提案をし、返却した。 4) 発表 大槌町への支援活動について、各方面からの要請を受け発表活動を展開した。 5) 東日本大震災支援活動の報告書の作成 「大槌町保健師による全戸家庭訪問と被災地復興」と題して明石書店から出版した。